

脳卒中片麻痺患者に対する 急性期作業療法アプローチ

「4つの設定」で予後を変える最強メソッド

開催日：2026年4月26日(日) 10:00～16:00

会場：インターネット生ライブ中継

講師：松岡 耕史 先生（多摩丘陵病院リハビリテーション病院）

石川 哲也 先生（済生会神奈川県病院）

対象：急性期の評価・介入の実際を学びたい作業療法士・

急性期から作業療法の導入を促したい看護師・PT・ST（左記以外でも受講可）

受講料：会員 9,800円（税込）一般 12,800円（税込）

2週間見逃し
受講期間あり



今、会員になると
年会費4,900円が無料
実質7,900円割引



「頑張ってるのに、なぜか成果が出ない…」 その原因、「設定のミス」かもしれません。



脳卒中リハビリで最も大切なに、最も曖昧になりがちのが「設定」。機能に合っていないアプローチの難易度設定や、高すぎるゴール設定など「設定の質」が、リハビリの成果を大きく左右します。この講座では、上肢の使い方や課題の負荷量、ゴールの立て方から環境構成まで、脳卒中片麻痺患者に対する“4つの設定”をエビデンスと実践からベテラン講師が徹底解説。日々のアプローチで、患者さんの予後を変える究極のメソッドを手に入れてみませんか？



脳卒中リハの成果を左右する “4つの設定”を臨床で使いこなそう！



難易度設定

上肢アプローチの難易度設定

- ・段階的負荷とは？
リーチ動作の「ちょうどいい難しさ」を見極める
- ・手指か？肩か？
運動単位の選択と“優先順位”的つけ方
- ・「できないからやらない」から
脱却するための課題構成



ゴール設定

患者さんを中心とした ゴール設定

- ・ADLができる、だけで終わらせない
“意味ある作業”的抽出方法
- ・ゴールが遠すぎる？近すぎる？
SMARTモデルを臨床に落とし込む
- ・“目標は本人の中にある”
自己決定を引き出すコミュニケーション術



運動負荷の設定

どこまでかけて大丈夫？ 運動負荷の設定

- ・急性期の患者さんは常に疲れている?
課題反復と休息の黄金比
- ・“麻痺だから軽く”はもう古い?
中枢神経再建に必要な刺激量とは
- ・その体力で退院できる!?
片麻痺患者に必要な運動耐容能の評価とアプローチ



環境設定

ここが作業療法の腕の見せ所! 環境設定の実際

- ・環境が変われば動きも変わる!
セラピストが整えるべき“5つの要素”
- ・どこに置く？どう配置する?
3倍離床が進む環境デザイン
- ・家庭・施設で継続できる
支援環境の構築と家族指導のコツ



※この講座は離床アドバイザー取得コースの理論1単位・学会認定資格更新10ポイントを取得することができます

申込方法

ホームページよりオンライン登録

日本離床学会

検索

お問い合わせ・
お申込先



日本離床学会

